

# 学報

2015年7月 Vol.695



第9回岐阜大学産学ツーリズム (6月30日)

2015サマースクール(受入)を開講	01
アーカンソー大学フォートスミス校(アメリカ合衆国)と学術交流協定を締結	02
第5回連合農学研究科セミナーを開催	03
第3回学長記会見を実施	04
森脇学長らがダッカ大学, インド工科大学グワハティ校を訪問	05
連合農学研究科がチュイロイ大学(ベトナム)と部局間交流協定を締結	06
岐阜大学環境連携事業『エコがつながる種まきプロジェクト』を実施	07
第9回岐阜大学産学ツーリズムを開催	08
叙位・叙勲	09
学位授与	10
表彰受賞者	11
産官学連携の実施状況	12
科学研究費助成事業(平成27年度)被配分件数及び被配分額の対前年度比較	14
外国人研究者の受け入れ	31
平成27年度入試(秋入学)募集要項, 平成28年度入試募集要項	32
メディア掲載一覧	40
諸会議	45
主要日誌	47
人事異動(学内限定)	48

## 2015 サマースクール（受入）を開講

本学留学生センターは、6月3日（水）から、サマースクール（受入）を開講した。このプログラムは8週間コースと4週間コースの2コースがあり、今回は、8週間コースの参加学生としてスウェーデンのルンド大学から17名の学生が本学に来学した。

サマースクールは、本学の学術交流協定大学の学生を対象に毎年開講しているもので、今年で28回目を数える歴史のあるプログラムである。サマースクール参加学生（以下、サマスク生）は、日本語学習に加え、日本文化体験として近郊の美濃市（和太鼓・着付け）、土岐市（陶芸体験）、郡上市を訪れた。郡上市では3泊4日のホームステイも行われた。

このほかに、能楽（能・狂言）体験、相撲観戦、上高地一泊旅行等と多彩なプログラムが用意された。サマスク生は、日本人学生チューターと共に約2か月間本学学外合宿研修施設に宿泊し、食事や勉強等生活を共にすることにより、深い絆が生まれる。これを契機に留学をこころざし、ルンド大学をはじめ海外に留学したチューター経験者が多数いる。

6月3日（水）は、留学生センターで開講式とガイダンス、キャンパスツアーを行った後、歓迎会を開催した。歓迎会では、サマスク生達は、日本語で専攻や趣味などについて自己紹介をした。続いて日本人学生チューターの自己紹介が行われた。和気あいあいとした雰囲気の中で、学生達の距離はすぐに縮まり話の輪が広がった。



開講式・ガイダンス



キャンパスツアーの様子

## アーカンソー大学フォートスミス校（アメリカ合衆国）と学術交流協定を締結

本学地域科学部とアーカンソー大学フォートスミス校（University of Arkansas Fort Smith (UAFS)）は、6月8日（月）、学生交流・研究者の交流等を推進するため、学術交流協定を締結した。アーカンソー大学フォートスミス校はアメリカ合衆国アーカンソー州にある4年制の州立大学であり、地域へのプラクティカルな学術貢献、卒業生の就業面での地域貢献、国際プログラムの充実などで評価が高い大学である。

地域科学部で行われた調印式には、本学の鈴木理事（国際・広報担当）、竹内地域科学部長ら学内関係者、アーカンソー大学フォートスミス校のポール・ベラン学長、鈴木丈夫国際部エグゼクティブディレクターが出席し、協定書に署名した。

この学術交流協定は、グローバル化時代に相応しい大学の構築に貢献し、交換留学生・研究者交流を通じた国際化に寄与すると共に、平成28年度から地域科学部に新設する「国際教養コース」の教育にとっても重要な役割を果たすことが期待される。

また、同日にアーカンソー大学フォートスミス校一行は、森脇学長を表敬訪問し、懇談が行われた。懇談では、ベラン学長から、アーカンソー大学フォートスミス校が誇るアメリカで一番美しいと謳われるキャンパスや、同校への寄附等による充実した設備を持つ学習環境、同校の留学生らの就学状況等の紹介があった。また、話題は、アーカンソー州に本部を置くウォルマート等の地元企業との連携や資金調達のノウハウにまでおよび、本学の同席者は興味深く耳を傾けた。

両大学は、中規模大学であること、地方都市の郊外に位置すること、地域に根差した教育・研究活動に力を入れていることなど、共通点も多く、今後の活発な交流が期待される。



懇談の様子

## 第5回連合農学研究科セミナーを開催

本学大学院連合農学研究科は、6月16日（火）、参加者41名（学生17名、教職員18名、企業6名）の下、第5回連合農学研究科セミナーを開催した。

最初に、本研究科の授業科目「研究インターンシップ」の成果報告を2名の学生が行った。研修先が一丸ファルコス株式会社のベン オスマン サナさんは、普段研究室で体験できない企業独自の研究室や機械の説明や、企業の方々にとっても優しく受け入れてもらったこと等、貴重な体験について報告した。また、研修先がアンダラス大学のフォニー インダームティアラさんは、現地の人々への聞き取りを行い、今後の自分の研究にどう役立たせるかについて報告した。

続いて、本研究科の教育コンソーシアム後援会インダストリー部会参加企業5社の代表者が、企業説明及び期待する学生像について講演をした。聴講者からは、博士課程の学生の採用をどう考えているか等具体的な質問もあり、活発な議論となった。

最後に、本学保健管理センター長の山本教授から、海外派遣中の健康管理について講演があり、海外での研究インターンシップや国際学会に参加する予定の学生が熱心に耳を傾けた。



発表を行うベン オスマン サナさん



発表する株式会社サラダコスモ 中田光彦氏

### 第3回学長記者会見を実施

本学は、6月17日（水）に、平成27年度第3回学長記者会見を実施した。

会見ではまず、森脇学長が発表事項について、「岐阜大学の将来ビジョン」と関連させて概要を説明した。

引き続き、次世代エネルギー研究センターの野々村センター長から「研究推進・社会連携機構次世代エネルギー研究センターの活動紹介」について説明があった。

質疑応答では、記者から多くの質問がされるなど本学の情報を積極的に発信する機会となった。



概要説明の様子



説明する野々村センター長

第3回発表事項は次のとおり。

- **森脇久隆学長**  
概要説明
- **野々村センター長**  
「研究推進・社会連携機構次世代エネルギー研究センターの活動紹介」

## 森脇学長らがダッカ大学、インド工科大学グワハティ校を訪問

本学の森脇学長、鈴木理事（国際・広報担当）、小小学長補佐、山本保健管理センター長、菅谷国際企画課長が、6月20日（土）～23日（火）の間、ダッカ大学およびインド工科大学グワハティ校(IITG)を訪問した。

本学とダッカ大学は平成16年6月に大学間協定を締結し、平成21年8月にはダッカオフィスを開所、平成25年からはダッカ大学内に岐阜大学オフィスを設置している。

今回の訪問では、ダッカ大学内に共同実験室を整備するための覚書が締結され、森脇学長とダッカ大シディック学長による調印式が執り行われた。調印に先立ち森脇学長等はダッカ大学ホサイン副学長、マームッド教授（生化学・分子生物学部）、モウラー教授（栄養・食品科学研究所）等とそれぞれ面会し、これまでの学術・学生交流を更に推進することで合意した。

また、ダッカ大学医学部の訪問では、カン医学部長を含む医学部教員とともに本学医学系研究科でのポスドク受入、医学部への短期交流学生受入について意見交換を行い、今後別途、本学医学部との学部間協定締結を検討することになった。

さらに、ナビ教授（本学大学院応用生物学研究科修了生）への本学客員教授の称号授与式が執り行われ、森脇学長からナビ教授に委嘱状が渡された。

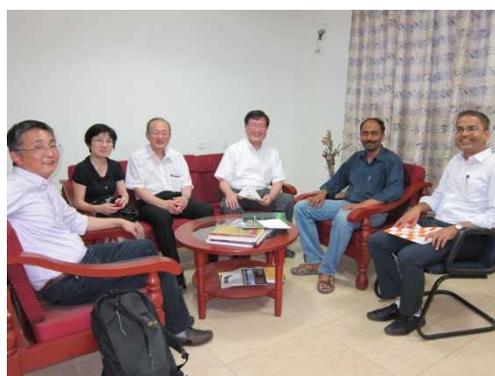
IITGとは本学連合農学研究科が平成23年7月に、工学部が平成26年4月にそれぞれ学部間協定を締結し、研究・学生交流を進めてきた。平成26年9月の森脇学長によるIITG訪問を始め、今年4月のグローバル推進本部キックオフミーティングではIITGのパテル教授が基調講演を行うなど、相互に研究者の交流が活発に行われている。今回、全学レベルでの交流に拡大するために大学間協定を締結することになり、IITGで調印式が行われた。

また、インド経営大学シロン校（IIMS）からデー学長、セングプタ教育部長も参加し、本学、IITG、IIMSの3大学による国際協働教育について協議が行われ、大学院課程におけるジョイントディグリープログラムを推進することで合意した。

さらに、サファー教授の本学客員教授の称号授与式が執り行われ、森脇学長からサファー教授に委嘱状が渡された。



ダッカ大学長との覚書締結



インド工科大学グワハティ校

## 連合農学研究科がチュイロイ大学（ベトナム）と部局間交流協定を締結

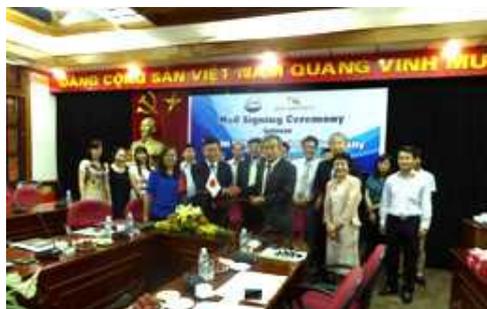
本学大学院連合農学研究科は、6月22日（月）、ベトナムのチュイロイ大学（ハノイ水利大学）との間で部局間交流協定を締結した。締結にあたり、本学からは千家連合農学研究科長、中野専任教員（教授）、吉田連合農学係長、研究科インダストリー部会の一員である株式会社三祐コンサルタンツの千原英司氏がチュイロイ大学を訪問した。

チュイロイ大学はベトナム政府の国家戦略の下、関係省庁の指導によって1959年に設立された大学である。当大学は、水資源（水利）科学分野に関係する全ての専門領域（水理工学、灌漑工学、水文学、ダム工学、防災科学、環境管理学、水力学、地域開発学等）を学部から博士教育にわたる教育課程で網羅し、当大学の卒業生の大半は、政府及び地方行政の関連技師あるいは行政官として活躍しており、ベトナムにおける水資源科学分野のトップ大学に位置づけられている。海外の20校以上の大学と連携を行っており、日本では京都大学、九州大学、東北大学、首都大学東京、中央大学とも教育研究連携の協定を締結している。

今回の訪問では協定締結のほか、キム学長、タイ副学長、ンガ国際連携室長他、岐阜大学工学研究科修士のハイ講師を含め計19名の教員と大学間の教育連携について意見交換を行った。

千家研究科長からは連合農学研究科の概要と南部アジア地域の協定大学12校との教育連携の取り組みについて紹介があり、その後、キム学長からベトナム政府の高等教育政策に基づいた海外の大学との教育連携の必要性について説明があった。さらに、本年8月に岐阜で開催するThe 4th UGSAS-GU Roundtable & Symposium 2015にチュイロイ大学が参加し、この教育連携コンソーシアムに加盟することを確認するとともに、今後、デュアルPhDディグリープログラムの実現に向けた具体的な検討を進めることになった。

※インダストリー部会：高度専門職業人育成を目的として東海地区の生物・バイオテクノロジー関係の企業5社で組織している。



調印式を終えた両大学の関係者



調印後のキム学長と千家研究科長

## 岐阜大学環境連携事業 『エコがつながる種まきプロジェクト』を実施

本学は、6月28日（日）、岐阜メモリアルセンター長良川競技場で、「エコがつながる種まきプロジェクト」として、あさがおの種を、環境に配慮したキッチンペーパーと併せて、十六銀行が主催するFC岐阜ホームゲームの観戦に訪れた来場者へ配布した。この活動は、本学が、十六銀行とFC岐阜それぞれと締結している環境保全における連携に関する覚書に基づき実施したものである。

「エコがつながる種まきプロジェクト」とは、あさがおの種を配布し、各家庭で栽培後、実った種を十六銀行に返送してもらうことで来年の活動につなげていくもので、環境意識の向上と緑化運動推進を目的としている。

当日は、本学の学生ボランティア9名（緑化サークル three trees, チアリーダー部 Stars）が配布活動に参加した。学生たちは、声をかけながら、十六銀行のスタッフとともに、5000セットを来場者へ手渡した。

今後も、十六銀行やFC岐阜と連携して、より一層環境保全について地域へ広める活動を進めていく。



配布活動を行う学生ボランティア

## 第9回岐阜大学産学ツーリズムを開催

本学は、6月30日（火）、森脇学長をはじめ、理事、副学長、監事等の大学幹部ら14人による地域企業訪問（産学ツーリズム）を実施した。産学ツーリズムは、本学が地域産業の振興に貢献するために、また、学生にとって魅力ある就職先の創出・開拓のために、地域を支える企業活動の現状を把握し、理解を深めることを目的として実施している。

今回は、岐阜・西濃地域の製造業として長い歴史があり、本学卒業生の採用実績がある、河合石灰工業(株)（創業130周年）と(株)ナベヤ（創業455周年）の2社を訪問し、工場見学及び企業経営者・技術者との情報交換を行った。

河合石灰工業(株)では、河合社長から会社概要について説明を受けた後、本学の卒業生から、本業である石灰製品の製造販売に加え、さまざまな分野への利用を考えて新機能材料製品の研究開発に意欲的に取り組んでいることの説明を受けた。その後、石灰石粉砕工場、石灰焼成工場、石灰製造工場において、粉砕設備や燃焼炉を見学した。異業種への参入となる平面波形成スピーカーの開発についての実演では、その完成度の高さに感嘆の声が上がった。

(株)ナベヤでは、岡本社長から会社概要について、技術担当者から自社の主力製品である治具についての説明を受けた後、鑄造工場で行われている溶湯の様子やオーダーメイドに対応が可能となるように工夫された治具製造工場を見学した。

両社は、ともに、歴史のある会社で、伝統技術の継承や人材育成を大切にする一方で、新材料の開発研究、新技術の開発、新分野への参入に積極的で、企業経営の持続と発展に対する熱意を実感できる訪問となった。

本学では、地域が求める人材を育成し若年層の地元定着の推進を目標に、地（知）の拠点事業を推進している。今回のように大学幹部自ら地元企業へ訪問し、現状を把握するだけでなく、新たな魅力を発見することは非常に重要であることから、今後の人材育成や就職支援に活かせるよう、産学ツーリズムを継続的に実施していく。



河合石灰工業(株)の工場見学をする参加者 (株)ナベヤ工場にて製造された鐘をつく学長

## 叙位・叙勲

元本学職員に対し，次のとおり叙位・叙勲がありました。

故 元岐阜大学農学部事務長 津田 力夫 氏  
従五位 瑞宝双光章（平成27年6月6日）

## 学位授与

学位の種類	学位記番号	氏名	学位授与年月日	学位論文名
博士（工学）	甲第480号	ナズリ ビン ム NAZRI BIN MD ドダウド DAUD	平成27年6月30日	Flow control of leading edge separation on airfoil using DBD plasma actuator (DBDプラズマアクチュエータによる前縁はく離流れの制御)

& \* %&

& \* %

& \* %%

& \* %\*







































































